

九	条	の	会	修学院学区	
		つ	う		し

No. 103
2022.3.1

修学院学区九条の会・事務局
〒606-8033
京都市左京区修学院山添町 8-2
修光学園気付 (FAX 702-2700)
発行責任者：福山和人



新しいお猿さん

赤山さんのお猿さんを見学に。

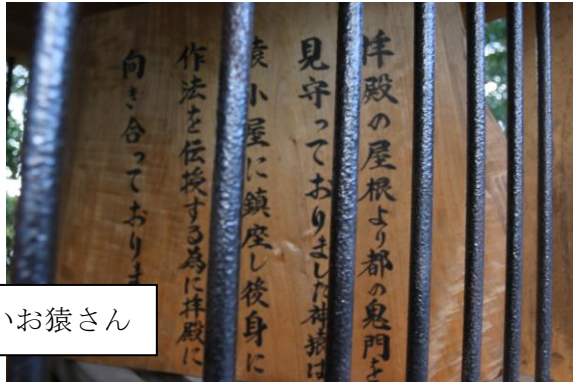
冬晴れの青空の気持ちの良い日、都七福神の一つ福祿寿神をお祀りしている赤山禅院に行ってきました。

本尊は陰陽道の祖(赤山大明神)。平安京の東北、表鬼門にあたることから方除けの神様として信仰されています。鬼門とは反対の方角が申であることから、拝殿の屋根にはお猿さんの置物が置かれていました。百年近く経てかなり傷んだため、新しいお猿さんに変わったと聞いて、見に行ったのです。

信楽の陶芸家の方が新しく作って寄贈されたという、かわいらしいお猿さんでしたよ。旧いお猿さんはあちこち傷を修理され、下に降ろされて横に置かれています。地上から屋根の上の新参者のお猿さんを指南しているのだそうです。



作法を伝授する旧いお猿さん



「戦争しない！ 9条は私の宝」 3・19 修学院デモ

3月19日(土)午後1時30分集合

一乗寺西浦畑公園～柊公園

私たちは、戦争は絶対イヤです。私たちは、戦争はしたくありません。
地球上からすべての戦争がなくなりますように。

DVD上映会 「義男(ギダン)さんと憲法物語」

1月15日 ほっとスペースで 参加20名



現在の日本国憲法が、日本人の手によって作られたことが良くわかる番組でした。初回2020年5月2日、NHK ETV特集でドラマとドキュメントで描いた番組として放送されました。ギダンさんの愛称で親しまれた福島県の法学者・鈴木義男(すずきよしお)。東北大の教授時代、軍事教練に反対して教壇を追われた義男さん。弁護士となり治安維持法違反者の弁護に尽力。敗戦後、衆議院議員になると9条の平和主義や25条の生存権だけでなく国家賠償請求権や刑事補償請求権の追加を求め、三権分立の確立を目指す。その波乱の生涯を、新資料をもとに描いています。

感想

▼“人類文化の理想が平和である”という言葉が印象に残りました。

▼日本の憲法はGHQに押し付けられた憲法だと言う人がいました。私はそれでも良いものはいいと思っていましたが、今日のビデオを観て、たくさんの方がかかわって作り上げた憲法なんだと知り、誇らしく思いました。そしてどうしても守っていかなければ、と思いました。

▼[敵基地攻撃能力を持つ]という事が新聞に出ている。北朝鮮もミサイル発射を何回もしているし、今、とても恐ろしい時代になったと思います。国民の負担金は何かも値上げです。国防費が物凄くたくさん増えている。政府はいつでも戦争する気はあるのでしょうか。

▼今までTVで2回観て大変良かったのですが、今回大きなスクリーンで見ると、気が付かなかったことが多くあり、すばらしかったです。いずれかの時期にもう一度、左京九条の会とし



て再上映して欲しいと思います。

▼短い言葉で、大多数の民衆を説得できる、ギダンさんの弁護士としての力、心がすばらしい。

▼あのような国会でのやりとりを、新聞は国民にどう伝えたのか会場の資料として用意したらよかったと思いました。

▼この映像を、現在の国会の、地方議会の議員さんたちにしっかり見て、心に納めて考えてほしい。



修学院学区九条の会では、月 2 回修学院学区の街の皆さんと平和について語りたいと署名行動をしています

《毎月第 1 火曜日は上終町の京都芸術大前で午前 12 時 15 分から、
第 3 火曜日は叡電修学院駅前で午前 11 時から 12 時。》
途中からでも、短時間でも、どなたでもいらしてください。

3 月 1 日(火)、4 月 5 日(火)12 時 15 分～ 京都芸術大前

3 月 15 日(火)、4 月 19 日(火)午前 11 時～ 叡電修学院駅前

< 街角での会話 >

* 「改憲賛成！」と叫びながら通り過ぎる女性がいました

* 小さなお子さん連れの女性が、次いで若い男性が署名しました



「近現代史学習会」

第 130 回 1 月 22 日(土) 「現在の米中関係」

参加 15 名

中国は台湾を中国の領土の一部と主張して、取り返そうとしているし、台湾は、そうならな
いために、アメリカの応援も得たい。石垣島にも自衛隊の基地が出来て、台湾有事の時は、米
軍と自衛隊が一緒になって使うのではないか。1 月の学習会では、アメリカと中国は、経済的
には、もたれあう大国で、アメリカは軍事的には中国を攻撃相手とはみなしていないとの事だっ
たけれど、台湾をめぐるのは、どうなんだろう？石垣島の住民が恐れているのがテレビで映っ
ていたから。

(上田美子)

～～上田さんの質問で次回テーマは「台湾有事って本当か？」に決まりました～～

「近現代史学習会」講師 佛教大学名誉教授 原田敬一先生

午前 10 時～12 時 修学院ルーテル教会 参加費 500 円

第 131 回 3 月 5 日(土) 「まん延防止」のため、中止

第 131 回 4 月 2 日(土) テーマ「台湾有事って本当か？」

第 132 回 5 月 7 日(土) テーマ未定

第6波 オミクロン株と米軍基地について考える

第6波オミクロン株の大流行は、2022年の年明けに合わせて始まりました。それは、沖縄県から山口県、広島県、神奈川県のみ軍基地のある所から次々と市中に広がってきました。全国的に感染状況が落ち着き、それぞれの規制が解かれた矢先の出来事でした。わが国では、第5波時に海外渡航規制などで感染予防を実施しており、この急激な感染は米軍基地からの感染発生を疑うことしか考えられません。

1月2日、沖縄県の玉城デニー知事は緊急記者会見を開き、「県下の実態は、米軍からの染み出しが、オミクロン株の市中感染拡大の要因になっていることは間違いない」と発言しました。その後、先の米軍基地のある県下でも市中感染が発生し沖縄県と同じ事態が発生しました。

1960年1月19日、新・日米安保条約第6条に基づき日本とアメリカ合衆国との間に地位協定が結ばれました。この協定により、米軍関係者は日本の法律が適用されないのです。日本に入国する米軍人やその家族の入国審査、検疫が免除されています。感染の実態を指摘しても無視されています。

政府は、感染の水際作戦として国内の空港などでは米国からの入国を拒否していましたが、米軍基地は「治外法権」になっています。我が国が真の独立国になるためには、日米安保条約の見直しの問題がこのコロナ禍のなかで、さらに明らかになっています。

政府2022年度予算では、軍事費を5兆4005億円計上しています。戦争する国づくりに向け、憲法違反である「敵基地攻撃能力」の増強、兵器の整備や新基地建設を盛り込んでいます。軍事費は10年連続で最高額を更新、21年度補正予算と合わせて初めて6兆円超しとなりました。

米国に従属し、国民の声を聴かない岸田政権に対して、「改憲よりコロナ対策」の声を、来る参議院選挙で届けましょう。9条を守り25条を充実できる政府こそ、今、私たちが経験しているコロナ危機、人災を克服する道ではないでしょうか。

シリーズ

私の戦争体験

一乗寺 夏梅誠一さん『“棄民”のあしあと』

夏梅さんは1921年(大正10年)生まれ、100歳になられた。夏梅さんがご自分の戦争、抑留体験を本にされたのは2015年のこと。

京都中小企業家同友会の同人エッセイ誌に14年間にわたり寄稿されたものをまとめて『“棄民”のあしあと』と題されて出版された。夏梅さんの許可をいただき、その本の中身をご紹介します。(祝迫)

1942年1月、21歳のとき入隊、4月にはソ連満洲国境守備隊に配属され満洲に渡る。

1945年8月15日に敗戦、16日武装解除、孫呉(そんご)の捕虜収容所に集められ、ソ連軍の捕虜となる。9月になり、黒龍江(アムール河)を渡りソ連のブラゴエに移動。その地で辛い労役につかされる。アムール河に止まっている貨物船から積み荷を荷揚げする。60キロもある大豆が入った麻袋をかつぎ、渡し板を渡り、岸へと運ぶ。捕虜になったのは8月、夏服を着

ていた。ブラゴエは秋には氷点下になる。やっと支給された外套、帽子、手袋、靴、靴下はソ連兵用でぶかぶか。それでもないよりましだった。アムール河が凍りつくと川の上にレールを敷き、機関車が走る。その機関車が運んでくる荷物を運ぶ作業に変わった。厄介なのは石炭だ。固まった石炭を鉄棒で突きくずすのだが、凍り付いた石炭は簡単には崩すことができない。この作業は夜間でもやらされ、氷点下 30℃の中で作業をしなければならない。満足な食料もなく大量の虱に悩まされ、発疹チフスや回帰熱にかかり雑魚寝。病気は蔓延していく。フラフラの体で毎日労役につく。バタバタと死んでいく人、その人たちを白樺林の中に穴を掘って埋めていった。



とうとう私も病気になった。高熱が出てガタガタ震えながら寝ていた。なんとか熱が下がり、助かった。助かったとはいえ、すぐに作業に出られるわけでもなく、少し動けるようになると病人の世話をした。伝染病にかかった捕虜たちが毎日街中を歩いて作業に通っているのだ。ソ連側もこれは危ないとなったようで、新しく宿舎が建てられた。今度は雑魚寝ではなく一人一人にベッドが与えられた。ここに病人と半病人が移された。

年が明けて宿舎前に整列させられた私たちは動ける者と病人に分けられ、私たち病人のグループは貨車に乗せられ、アムール河を渡り、なんと、また中国へと送られたのだ。着いたのは黒河(こっか)。ここでは朝礼も点呼もなく軍隊生活が突然終わって戸惑う。使役もなく寝ているほかなかった。

昭和 21 年 4 月北安(ペーあん)へ移動。この時中国は内戦が起こっており、安全が確保されないで当面この地で過ごしてもらえないとのこと。ただ、働きたい人は仕事を紹介するので申し出て下さいといわれ仲間 4 人と北安軍政学校の食堂で雑役として働くことになった。働き出して 1 ヶ月、給料としてソ連の軍票 2, 3 枚、東北人民元 10 数枚を受け取った。これがどれほどの値打ちがあるものかさっぱりわからなかったが、市へ出かけて冬物の衣服を買い求め買い食いもすることができた。

この地に新たに病人が送られてくることになり、私たちはまた移動することになった。次に移動したのは興山(しんさん)という炭鉱街。炭鉱で働くことになった。この地で正月を迎えた。炭鉱では 3 交代勤務で給与も支払われた。あいた時間で“学習”も行われ、戦争の意味を問われ、自身の来し方を思い起こし、だんだん社会に目覚めていった。この炭鉱にいるのは元日本兵、開拓民として渡満し現地招集された人たち 300 数十人。あの「大東亜共栄圏の建設」という大号令にどれほど私心をはさむ余地があっただろうか。それがこれからやろうとする学習の原点だと言われた。

炭鉱でハッパをかける作業中、事故にあい死にかけた。その後、地底深く石炭を掘り出す作業中、ガス中毒にあい、朦朧として倒れ、やっとこ助け出されたが私はケガ人や病人の入る休養室に移された。その時に何年ぶりかで日本人医師の診察をうけることができた。休養中、

メーデーがあるのでそこでレーニンの肖像を私に書いてほしいと言われた。絵を描けるという話を診察のときにしていたので依頼がきたのだろう。自信はなかったが、ベニヤ板に模造紙を貼り付けてレーニンの写真を見ながらなんとか仕上げることができた。

それからしばらくして、休養室に入っていた者の中から5人が集められ、先生から君たちは回復しても炭鉱で働くことは無理だといわれ、中国医大が次の働き場所だと告げられた。中国医大での仕事は教材科で私は絵図室に配属となった。仕事は細菌の拡大図や組織図、筋肉図などを描いていく仕事だった。ここで身丈にあった衣服を支給され、やっと敗戦以来身に付けていたオンボロの日本軍衣を脱ぐことができた。医大での絵図を書く仕事は楽しかった。まれに手術室での写生をする仕事もあり緊張した。昭和 23 年、中国医大が瀋陽(しんよう)に移転し、私たちも出発した。瀋陽は都会だった。新しい中国医大は学生数も増え、絵図室の人員も増えた。故国への通信がやっと実現した。私がなんとか元気でこういうところで働いていると親元へ送ったところ、父親から信じられない気持ちで何回も見直したという返信が来た。

夏梅さんは 1953 年(昭和 28 年)帰国された。無事に帰国されたことに心から良かったと思うと同時にあまりの長さ本当に言葉もない。夏梅さんはロシアで発見された捕虜に対する公文書を見て衝撃を受けられた。その思いは以下のように表されている。

「1993 年ロシア公文書施設で発見された『大本営報告書』によると時の政府は「180 万人捕虜についてソ連指令下に移し、国籍離脱までを想定、現地に土着させ、事実上“棄民”化する」という方針を固めていた。その衝撃的な事実を知った今、あの抑留に耐えてきた者の一人として、時の為政者から私たちに何らかの表明があつて然るべきではないのか、と問いたい。そしてそれは、今なお凍土の下に眠る斃れた者へのせめてもの饑であつてほしい。いま生きる人たちには、私たちのたどった一痛恨の時代を繰り返さないよう願うものである。」

◎修学院学区九条の会で集約した署名数(12/25～2/25)

新憲法改悪許さない 70 筆、核兵器廃絶国際署名 5 筆、核兵器禁止条約 40 筆

会のうごき＝

2022 年 1.15 DVD上映会 「義男(ギダン)さんと憲法物語」 ほっとスペース 20 名

1.18 署名・宣伝行動 叡電修学院駅前 6 名

1.19 呼びかけ人会議 7 名

1.22 近現代史学習会 15 名

2.1 署名・宣伝行動 京都芸大前 3 名

2.15 署名・宣伝行動 叡電修学院駅前 7 名

2.17 呼びかけ人会議 10 名

編集後記

●戦争法案が国会で審議されていた 2015 年 7 月 12 日、修学院地域デモは 90 名を超える参加者で行進しました。3 月 19 日に行う今回のデモは、改憲に向けて日本維新の会、国民民主党も含めた翼賛体制のもとで行います。是非ともご参加ください。(T. N)